

歴史を生き、 歴史をつくる教会 となるために

—札幌豊平教会の戦争責任告白から 25 年—

講師 渡辺輝夫さん (夕張伝道所牧師)

2021 年 8 月 22 日 (日) 11:45~13:15

会場 札幌豊平教会礼拝堂 ご自宅での ZOOM 視聴歓迎

札幌豊平教会は戦後 50 年を迎えた 1995 年に、アジア・太平洋戦争とその後の私たちの歩みに思いをいたし、翌年 1 月の定期総会において私たちの信仰告白である「戦後 50 年を迎えての日本キリスト教会札幌豊平教会の罪の告白と新たな宣教への決意」(以下、「告白」)を採択して戦争に至る道のりと戦時中及び敗戦後の私たちの教会の在り方を反省・懺悔すると共に新たな宣教への決意を表明しました。

本年はこの「告白」から 25 年目となるため、平和集会において改めて「告白」の意義とその後の豊平教会の歩みを振り返り、今後の歩みに思いをいたしたいと考えました。特に「告白」の中では新たな宣教への決意として「地域の課題を担います」と表明していますが、「地域の課題」を見出し、それを担うまでに長時間を要してしまった私たちの教会の現実もあります。遊技店の外で親を待つ子どもたちとの交流を通して貧困が最も弱い子どもたちにしわ寄せされている状況を認識させられ、教会は、彼らをサポートする取り組みを「夏休み、宿題やろうぜ!」「朝ごはん食堂」として展開しました。しかし、学生ボランティアの継続性の壁にぶつかり、現在の新型コロナウイルス感染症の状況も相俟って、子どもたちへの取り組みは足踏み状態が続いています。

一方、市民ボランティアを中核にスタートした「朝ごはん食堂」や、市民ボランティアの大きな力添えがあってこそ始められた毎週金曜日昼のホームレス等を対象とする「とよひら食堂」は、市民ボランティアばかりか、日本キリスト教会札幌琴似教会、札幌バプテスト教会、聖公会札幌キリスト教会などの他教会に属するボランティアの力にあずかりながら、困窮する方々の増えるコロナ禍の中で、食事を必要とされる方々に少しでも多く美味しい食事をお届けしたいと、徐々に規模を拡大しつつ現在まで継続されています。

上記の問題意識から講師として「告白」を指導された渡辺輝夫牧師をお迎えすることとしました。渡辺先生には当時のことを振り返って頂きながら、夕張伝道所に移動された経緯、夕張で考えられたこと、その後の豊平教会の歩みをどうぞ覧になっているかなどを自由にお話し頂く予定です。ご講演を伺って「告白」の意義を再確認すると共に、これからの私たちの教会の歩みについて協議したいと思います。

(札幌豊平教会社会問題委員会)

zoom 視聴ご希望の方は、toyohirachurch@jcom.home.ne.jp へ 20 日までにご一報を

日本キリスト教会 札幌豊平教会

〒札幌市豊平区豊平 6 条 3 丁目 5 - 1 5 TEL 0 1 1 - 8 1 1 - 6 8 3 8

HP : <https://www.ccjtoyohira.com/> 地図の掲載があります。

戦後 50 年を迎えての日本キリスト教会札幌豊平教会の罪の告白と新たな宣教への決意

「教会は、主イエス・キリストをかしらと仰ぎ、聖霊の働きにより、神の救いの福音のために集められたキリストのからだであって、イエス・キリストのほかに、よって立つべき岩をもたない。しかし、わたしたちの教会は、その歴史の中で、国家権力の不当な要求に屈し、天皇礼拝や、神社参拝を強いられても、十分に戦うことができず、政府の方針にのっとり教会合同を行い、聖戦の名によって行われた侵略戦争のため、自国を含めてアジアの諸国民と諸教会の生命と権利が侵害されても、真にキリストの証人としての役目を果たし得なかった」（「現代日本の状況における教会と国家に関する指針」、日本基督教会、1983年）

わたしたち札幌豊平教会は、アジア・太平洋戦争終結 50 周年を迎えた昨年、「私の戦争体験と戦後」と題する教会員の証言集会や、数回にわたる学習会、そしてさまざまな立場での取り組みをとおして、戦前・戦中・戦後の日本の歩みをふりかえり、その歴史の事実を直視してきました。その結果、わたしたちの教会の犯した過ちを認識するにいたり、ここにその罪の告白と新たな宣教の決意を表明いたします。

札幌豊平教会は、北星女学校の創設者であった宣教師サラ・クララ・スミスが 1906 年頃、当時の貧民街であった豊平地区の一角に開設した日曜学校をその源とします。その後 1921 年、在日プレスビテリアン宣教師団が、豊平 4 条に土地を購入し、引きつづき、北星女学校関係者が奉仕する日曜学校として伝道してきました。1931 年には日本基督教会に所属した宣教師やこれを補佐する教師試補を中心とした豊平伝道所となり、伝道を発展させましたが、1941 年、牧会するアメリカ人宣教師に対する帰国命令により、宣教活動は停止を余儀なくされました。そして戦後 1949 年、伝道を再開し、1953 年には日本基督教団を離脱し、1951 年に創立された日本基督教会に所属しました。この離脱は、日本基督教団の成立が戦時下における国家権力の強制によるものであり、教団としての信仰告白をもたなかったことに起因し、信仰告白を新たに定めた日本基督教会に札幌豊平教会（当時伝道所）が所属した理由もここにありました。しかし、それは明治からアジア・太平洋戦争へいたる歴史のなかで、日本基督教会が果たした戦争協力などの役割についての正しい認識と十分な反省の上に立った離脱であったとはいえません。わたしたち札幌豊平教会は、貧しい人々や病める人々への伝道に力を注いできましたが、自らの教会が犯した罪と過ちへの認識を欠いたまま、それを告白することなく戦後を過ごしてきました。

ここに、その怠慢と無恥を厳しく反省し神と隣人の前に懺悔します。とくに、アジア・太平洋諸国の戦争の犠牲者に対し、こころよりお詫びするとともに犠牲を強いた国家としての謝罪と完全な補償が一日も早く行われることを強く望みます。そして今後このような過ちが繰り返されることのないよう、神のことばによって絶えず改革され、真に神と隣人に仕える教会が形成されることを願います。そのために、この時代を生きる教会としての信仰の告白を吟味し、わたしたちの教会が豊平に建てられた歴史的意義をふりかえり、地域の課題を担います。さらに日本社会がかかえる諸問題の根源にあった天皇制の克服にもとづき、韓国・朝鮮人をはじめとする在日外国人やアイヌの人々とわたしたち一人ひとりの人権が尊重され、民族差別、性差別のない、自由で、公平な社会の実現を宣教の課題とし、教会のかしら・歴史の主であるイエス・キリストへの信仰に生き、神のことばによる信仰の戦いを共にすることを決意します。

主よ、わたしたちを憐れみ、わたしたちの告白と決意を真実なものとしてください。

1996 年 1 月 28 日 日本キリスト教会札幌豊平教会定期総会